

# 北の湖前理事長 りりしく

三回忌法要で  
川崎大師に銅像  
竹中銅器(高岡)が制作



高岡市美幸町の竹中銅器(竹中伸行社長)が手掛けた日本相撲協会の北の湖前理事長(元横綱)川崎市の川崎大師に建立された。紋付きはかまを着たりりしい立ち姿に仕上がっている。

北の湖前理事長は在任中の2015年11月、62歳で亡くなった。銅像は竹中銅器が妻のとみ子さんの依頼を受けて制作。高さ約2.5メートルで足元の土台は土俵をイメージしている。日本芸術院会員の山本眞

輔さん(名古屋市)が原型を作った。

通常、銅像は単色だが、とみ子さんの意向で羽織のみ黒色にした。全体は古代金色と呼ばれる薄茶色で顔の部分はやや赤みを加えて柔らかさを出した。着色は高岡市下伏間江の合同会社立川が担当した。

この日は現地で三回忌法要と除幕式があり、とみ子さんや八角理事長(元横綱北勝海)、貴乃花理事(元横綱)、横綱日馬富士関らが出席した。とみ子さんは「100年後も千年後も親方の姿が見られるのは遺族として最高の喜び。感謝の思いでいっぱいです。(銅像の)目は若かりし頃をイメージしてちょっとハンスムになりました」と笑みを浮かべた。